

話題 其の24: 偽札(偽造紙幣)騒動

先週、いつものようにガソリンスタンドで、スーパーガソリンを20JD(ジョルダン ディナール)分給油して、エジプト人の店員さんに、20JD札を手渡したら、つき返されました。

アラビア語の出来ない私と、英語の出来ない彼らとのコミュニケーションですが、自分が偽札で支払ったことはすぐに理解しました。

さて、20JDと言えば、単純に日本円に換算すると約3600円ですが、実際は2万円以上の価値があります。例えば、流通しているお米が60Kgも買うことが出来るのです。

ガソリンスタンドのエジプト人店員さんにとっては10日分の収入に当たるでしょう。

偽札の特徴は、①幅、長さ共に1~2mm小さい。②前フセイン国王の透かし肖像画が透かしではなく、裏面に(幼稚に)描かれている。③透かしの銀ラインが手書きの3点です。

偽札が出回っているのは以前から知っていましたが、注意して受け取れば私も被害に遭わずにすんだのです。それほど簡単に見破ることが出来るのです。

この偽札で私の職場が賑わいました。

Aさん: 「それは貧乏人じゃなくて、政府高官あたりが偽造したに決まてるよ。」

Bさん: 「実によく出来てるじゃないか。銀行に行ったら本物に換金してくれるよ…」

Cさん: 「銀行に持っていっても換金しないと思うよ」

この意見は最高に盛り上がりました。「自信を持って主張する」のが、アラブ人の特徴といってもいいでしょう。それぞれが、「間違いなく交換してくれるよ」とか「絶対に交換しない」と主張するのです。

特に、「交換してくれる」という意見には、『交換するべきだ』という強い願いが込められています。自分が造ったのでもない、たまたま廻り回って、無実の貧しい誰かが手にしてしまうのですから当然ですね。

私: 「銀行で換金してくれるなら、偽札に20JDの価値が付くことになるね。

銀行が偽札を買い取ってくれるなら、偽造紙幣はもっと増えるでしょう。

銀行には、偽造紙幣に対する責任も、換金義務もないでしょう。

だから、最後に手に入れた人が損すると思う」

Dさん: 「久米もどこかで使ってこないと損するじゃないか。」

このDさんの意見が意外と多かったのです。

まるでトランプの“ばば抜き”みたいに、最後の人が負けなのですが、彼らにとっては、最後の一人になるには高額すぎるのです。エジプトからの出稼ぎ労働者にとっては給料の10日分、この同僚達にとっては毎月の小遣い全額です。我が事に例えれば、私達も「う〜ん」とうなりたくなりますよね。幸い私にとって20JDは、大きな打撃ではないので今のところ“最後の人”になっています。

被害者の一人として、これ以上の偽造紙幣やコインが出回らないように願うばかりです。

話題 其の25: ヨルダンは平穏です。

前回の通信を書いたころは、ガザやヨルダン川西岸での紛争を受けて、ヨルダン国内でもデモが散発したり、市街でも異常な警備体制が目についたのですが、ここ1ヶ月は嘘のように平穏です。

1ヶ月前は、金曜日にモスクで行われる「午後のお祈り」が終了するまで、我が家の前の道路は、鉄条網で車両通行禁止だったのです。聖なる金曜日の、特に午後の礼拝には多くの人がモスクに集まり、まさしく集会と同じ状況になるからです。集会終了後には、必然的に多くの情報が交換され、「ちょっと講義のデモでもやってみるか」となりかねないからです。

緊張感の薄れていた私は、「ちょっとショッピングだけだから」と警備の警官に頼んだら、「行きはよいよい帰りは怖い」と忠告されました。それが、先週などは警官の一人も見かけません。

近所にあるイスラエル大使館周辺に配備されていた装甲車5~6台も今は姿を消しました。

ヨルダンは、アラブ諸国とイスラエルや欧米という両陣営の中立の立場をとっています。

この立場は難しいのですが、欧米や日本にとっては、時に中東への交渉窓口として重要だと思いません。

これからも、この平穏な状態が維持出来ていることが重要です。

巷では、近々アブドラ国王が日本を訪問されるような噂があります。多分、実現するのでしょうか。そのときは、是非注目してください。特に、ラーニア王妃が随行なさるならその美貌に見とれますよ。
